

# 大学生の幸福度の決定要因－近大パネル調査を用いた分析－\*

山根承子<sup>†‡</sup> 佐々木俊一郎<sup>†</sup> 布施匡章<sup>§</sup>

マルデワ グジェゴシュ<sup>†</sup> 藤本和則<sup>§</sup>

## 要旨

本稿は、大学生を対象に実施したアンケート調査および彼らの学業データを使用して、大学生の主観的幸福度、学業満足度や将来についての不安感の決定要因を分析した。パネル固定効果モデルによる分析の結果、大学生の幸福度、留年不安、就職不安の決定要因には個人固定効果が非常に大きな役割を果たしていることが明らかになった。クロスセクションデータで分析する場合には注意を払う必要があるだろう。個人固定効果をコントロールした上でも、恋人の有無だけは幸福度に有意な影響を与えていた。

キーワード: 主観的幸福度、学業満足度、大学生、アンケート調査

JEL classification: D90, J24, I26

---

\* 本研究は、近畿大学学内研究助成金（21世紀研究開発奨励金）「幸福度と大学教育のあり方に関する研究～パネルデータ構築と実験による新しい試み～」、大阪大学社会経済研究所共同利用・共同研究「大学生の長期パネルの構築」の助成を受けています。

† 近畿大学経済学部

‡ E-mail: syamane@kindai.ac.jp

§ 近畿大学経営学部

## 1 目的

近年の大学入試は多様化しており、様々な学生が入学している。特に私立大学においては、指定校推薦などの面接のみで入学した学生がいる一方で、学力試験を突破した一定基準以上の学力を持っている学生も多く存在し、その多様性は非常に大きい。

本研究では、近畿大学の経営学部および経済学部の学生を対象に半年に一度アンケート調査を行い、彼らの生活や選好についてのパネルデータを構築する。同時に、近畿大学が保有している彼らの学業成績、出席率および入試区分に関するデータの提供を受け、彼らの幸福度、学業に対する満足感や将来への不安感が、学業および生活様式や交友関係等によってどのような影響を受けるかについて包括的に分析を行う。佐々木ら（2018）は同じ近畿大学でクロスセクションデータを用いた分析を行い、大学生の幸福度は経済的な豊かさ、交友関係の充実度、クラブ・サークル等の課外活動への参加、達成したい目標の有無に影響を受けることを明らかにしている。また、附属校推薦、指定校推薦、スポーツ推薦で入学した学生は学業満足度が高いが、センター入試で入学した学生は学業満足度が低いことを明らかにしている。さらに彼らは、幸福度の対極となる不安感にも着目し、大学生に身近な留年の不安についても分析している。その結果、附属校推薦、指定校推薦、公募推薦で入学した学生の留年不安は大きいと、友人や取得単位数が多いほど留年不安は小さくなることが明らかになった。本稿はパネルデータを用いて、個人固定効果をコントロールしながら同様の分析を行い、大学生の幸福度の決定要因を明らかにすることを目的とする。

大学入学当初からのアンケート調査を、学業成績や出席率といった大学所有のデータと紐付けたパネルデータは他になく、本研究のデータは大学生の生活態度や意思決定を経時的に分析するのに適した、貴重なデータであるといえるだろう。

## 2 データ

本稿では、近畿大学の学生を対象に実施したアンケート調査で収集したデータと近畿大学から提供を受けた彼らの学業に関するデータを使用する。アンケート調査は4時点、学業データは3時点のパネルデータとなっている。本研究ではアンケートで回答した学籍番号と近畿大学が保有している学業データの学籍番号とを紐付けして分析を行った。

### 2.1 アンケート調査によるデータ

アンケート調査は2016年10月（第1回調査）、2017年4月（第2回調査）、2017年10月（第3回調査）、2018年4月（第4回調査）の4度行われており、パネルデータとなっている。対象は近畿大学経営学部および経済学部の2016年度以降の入学生であり、googleフォームを利用して行った。本アンケートは、ポスターの掲示やチラシの配布によって回答を募集するとともに、いくつかの授業では授業中に受講者に回答をしてもらった。回答者

はポスターおよびチラシに記載されている QR コードをスマートフォンで読み取るか、URL をパソコン・スマートフォン等に入力することによってアンケートのサイトにアクセスし、アンケートの回答を行った。回答のインセンティブとして、抽選を行って当選者に賞金を配布した<sup>1</sup>。

各回のアンケートでは、主観的幸福度、学業などに関する満足度、留年する不安や就職活動への不安などの主観的指標に関する質問、一人暮らしをしているか、アルバイトをしているか、クラブや部活に参加しているか等の生活様式に関する質問、LINE に登録している友人の数、恋人の有無など交友関係に関わる質問、性別や兄弟構成など回答者の属性等に関する質問などを尋ねている。各回の回答総数は表 1 および表 2 の通りである。

表 1 各ウェーブの回答者属性

WAVE	学部		学年				性別	
	経営学部	経済学部	1 年	2 年	3 年	4 年以上	男性	女性
第 1 回 (2016/10)	1,104	265	1,259	86	23	5	917	457
第 2 回 (2017/04)	662	1,203	1,119	726	21	6	1,351	521
第 3 回 (2017/10)	742	989	1,118	593	13	8	1,236	493
第 4 回 (2018/04)	457	784	485	411	348	9	888	364
Total	2,965	3,241	3,981	1,816	405	28	4,392	1,835

表 2 パネル回答者数

	総数	学部		学年				性別	
		経営学部	経済学部	1 年	2 年	3 年	4 年以上	男性	女性
1 回回答	2,326	1,639	652	2,526	1,031	403	28	1,682	664
2 回回答	1,096	530	566	723	385	1	0	752	338
3 回回答	449	78	371	3	5	0	0	318	125
4 回回答	94	8	86					63	30
Total	3,965	2,255	1,675	3,252	1,421	404	28	2,815	1,157

<sup>1</sup> 第 1 回調査では 200 名にクオカード 1000 円分、第 2 回調査では 20 名にクオカード 5000 円分、第 3 回では 35 名にクオカード 5000 円分、第 4 回調査では 31 名に現金 5000 円を配布した。

## 2.2 学業データ

学業データには、近畿大学から提供を受けたアンケート回答者の成績、取得単位数、出席率および入試区分が含まれている<sup>2</sup>。学業データの第1ウェーブは2016年度秋学期までの成績、第2ウェーブは2017年度春学期までの成績、第3ウェーブは2017年度秋学期までの成績から成っている。この学業データ（平均点、出席率、取得単位数および入試区分）の記述統計は表3に示した。プールドデータで学年ごとに算出した平均値は表4に示した。

表3 各ウェーブの学業データ平均値

WAVE	出席率	平均点	単位数
第1回(2016/10)	79.96	76.54	22.40
第2回(2017/04)	77.04	78.89	56.17
第3回(2017/10)	78.03	79.70	54.71
Total	78.61	78.52	46.34

表4 学年ごとの平均値

学年	出席率	平均点	単位数
1年	78.35	79.17	34.83
2年	76.77	79.85	50.26
3年	66.99	78.90	83.04
4年	58.35	75.14	113.14
Total	77.52	79.37	53.73

## 3 大学生の幸福度

### 3.1 大学生の幸福度の決定要因

アンケートでは、回答者に主観的幸福度を尋ねている。具体的には、「全体として、あなたは普段どの程度幸福だと感じていますか？『非常に幸福』を10点、『非常に不幸』を0点として、あなたは何点ぐらいになると感じますか？」と11段階で尋ねている。各年の平均値は第1回が6.74、第2回が6.84、第3回が6.91、第4回が6.95であり、同じ質問を用いている内閣府の国民生活選好度調査の平均値6.4前後と比較すると、大学生は平均的な日本人よりも幸福であるといえるだろう。

OLSとパネル固定効果モデルによる分析結果を表5に示した。被説明変数は11段階で回

<sup>2</sup> 学業に関するデータの提供については、アンケートに回答した場合、回答者の学業に関する個人情報を大学から提供してもらうこと、提供された個人情報は匿名化したうえで、学術目的で使用すること等をポスター、チラシ、webサイト上で説明している。学業に関する個人情報の提供および本研究における個人情報の取り扱い方針に同意した学生のみアンケートに回答してもらっている。

答した主観的幸福度である。取得単位数は大学からのデータから、それ以外はアンケートデータからの変数である。OLS では自由に使える時間やお金、友人数が多く、恋人がいて、アルバイトをしており、目標がある方が幸福度が高くなっているが、これらの効果のほとんどはパネル固定効果モデルでは消えてしまっている。個人の固定効果をコントロールしたのちでも、恋人がいることだけは幸福度に正の影響を与えている。

表5 主観的幸福度の決定要因 (OLS vs パネル固定効果)

	OLS		Panel Fixed Effect	
	Coef.	Std. Err.	Coef.	Std. Err.
一人暮らしダミー	0.054	[0.066]	-0.098	[0.318]
自由に使える時間	0.122	[0.030]***	-0.056	[0.049]
自由に使えるお金	0.047	[0.020]**	0.022	[0.039]
LINE に登録している友人数	0.097	[0.017]***	0.054	[0.044]
恋人がいるダミー	0.312	[0.068]***	0.247	[0.136]*
部活動・サークルをしているダミー	0.119	[0.057]**	-0.081	[0.092]
アルバイトをしているダミー	0.146	[0.066]**	-0.109	[0.106]
1週間に撮影した写真枚数	0.172	[0.032]***	0.085	[0.055]
達成したい目標があるダミー	0.382	[0.071]***	-0.107	[0.118]
取得単位数	0.013	[0.002]***	0.005	[0.006]
学年	-0.509	[0.108]***	-0.001	[0.339]
男性ダミー	-0.207	[0.063]***		
経営学部ダミー	0.146	[0.062]**		
Constant	5.273	[0.164]***	6.46	[0.362]***

Note: \*\*\* 1%, \*\* 5%, \* 10% significance.

### 3.2 大学生の不安感

同様に、大学生が抱える不安感についても分析を行う。留年に関する不安感は「あなたには、留年するかもしれない不安がありますか？」という質問に、「4: 留年する不安がおおいにある」「3: 留年する不安が少しある」「2: 留年する不安はあまりない」「1: 留年する不安はまったくない」の4段階で回答させた。点数が高いほど不安感が高く、平均値は 1.82 (SD = 0.89) であった。

就職に関する不安感「あなたは、希望通りの職(業種・雇用形態・勤務地など)に就くことができると思いますか？」という質問に、「4: 希望通りの就職ができない不安がおおいにある」「3: 希望通りの就職ができない不安が少しある」「2: 希望通りの就職ができない不安はあまりない」「1: 希望通りの就職ができない不安はまったくない」の4段階で回答させた。平均値は 3.07 (SD = 0.76) であった。

OLS とパネル固定効果モデルによる、留年不安についての分析結果は表 6 に示した。固定効果を考慮しても、自由に使えるお金が多い場合や、部活動やアルバイトをしていると留年不安が有意に低くなっている。就職不安については、固定効果モデルでは一人暮らしダミーのみが 10%水準で正に有意であった<sup>3</sup>。

表 6 留年不安の決定要因 (OLS vs パネル固定効果)

	OLS		Panel Fixed Effect	
	Coef.	Std. Err.	Coef.	Std. Err.
取得単位数	-0.012	[0.001]***	-0.008	[0.002]***
一人暮らしダミー	0.024	[0.030]	-0.102	[0.134]
自由に使える時間	-0.004	[0.014]	-0.001	[0.021]
自由に使えるお金	0.007	[0.009]	-0.041	[0.017]**
LINE に登録している友人数	-0.035	[0.008]***	-0.031	[0.019]
恋人がいるダミー	-0.001	[0.031]	-0.053	[0.057]
部活動・サークルをしているダミー	-0.106	[0.026]***	-0.138	[0.040]***
アルバイトをしているダミー	-0.137	[0.030]***	-0.176	[0.045]***
1 週間に撮影した写真枚数	0.021	[0.015]	0.016	[0.023]
達成したい目標があるダミー	-0.045	[0.032]	0.034	[0.052]
経営学部ダミー	-0.29	[0.028]***		
男性ダミー	-0.014	[0.028]		
学年	0.257	[0.049]***	0.351	[0.138]**
Constant	2.407	[0.075]***	2.091	[0.154]***

Note: \*\*\* 1%, \*\* 5%, \* 10% significance.

#### 4. 考察

OLS とパネル固定効果モデルの結果を比較することで、大学生の幸福度に影響を与えているほとんどの特性が個人固定効果によって説明されていることがわかる。しかし恋人ができることで、大学生は有意に幸福になることが明らかとなった。

近畿大学パネル調査は今後も継続予定であり、より長期のパネルデータにより、大学生の幸福度や生活様式に関するさらに深い知見を得ることができるだろう。

#### 参考文献

佐々木俊一郎、山根承子、マルデワ グジェゴシュ、布施匡章、藤本和則 2018 「大学生の幸福度と学業に対する主観的評価：アンケート調査と学業データによる分析」 生活経済学研究 vol. 47、pp.83-99.

<sup>3</sup> スペースの都合で推定結果は省略する。